



2012/01/23





コ)の第36回総会を25日開かれ、加盟193カ国の代表や、オブザーバーとして非加盟国や政府の機関、非政府機関の代表が出席した。

総会にはモンゴル国政府を代表してY. オトゴンバイル教育・文化・科学大臣、ユネスコ・モンゴル委員会のG. ジェルガルサイハン会長や関係職員らが出席した。

総会に際してモンゴル代表団はユネスコのイリナ・ボコヴァ事務局長と会談

の文化遺産及び自然遺産登録と保護、教育・科学、文化・IT部門の促進を現代の世界の方向に合わせ、ボコヴァ事務局長が7月にモンゴル国を公式訪問した際に署名した相互理解覚書に記した事業の実施について意見交換した。

総会の開会式ではモンゴル芸術コンサートが行なわれ、ユネスコ人類無形文化遺産に登録された馬頭琴とホーミーがユネスコ本部で演奏された。



## 「草の根—人間の安全保障」無償資金協力文書に署名



「草の根」プロジェクトの署名式

20日、清水武則駐モンゴル日本国大使とオトゴンゲレル外傷整形外科国民センター所長が日本大使館で、日本政府の無償資金協力「草の根—人間の安全保障」計画による「国立外傷整形外科国民センターへの医療施設用中古ベッド輸送計画」実施に関する文書に署名した。

この案件の供与限度額は94,632米ドル、モンゴル通貨で約1億2000万トゥグルクに相当する。「草の根—人間の安全保障」計画は、特に草の根レベルの福祉に重点を置き、地域のインフラ基盤の改善などを通じてバランスの取れた社会・経済の発展を目指すものである。

この日、署名した案件は、「日本外交支援協会」より提供された医療用中古ベッド171床、診察台10台、マットレス50枚をリニューアルした上で、ウランバートル市内の外傷整形外科センターに搬送するもので、「草の根」無償基金より、リニューアル費用及び輸送費を拠出する。

現在、外傷整形外科センターでは、身体機能が不自由な患者には適さない一般家庭用ベッドが多く使われている。この案件の実施により、機能的な医療用ベッドが配置される。なお、「日本外交支援協会」は、2008年度にも外傷整形外科国民センターに救急車を寄贈した。

## 「モンゴルの夕べ」をスウェーデン・スコーネ県ルンド市で開催

スウェーデンのスコーネ県ルンド市で活躍しているモンゴル青年たちの提案によって創設された「Sweden Mongolia 基金」が「モンゴルの夕べ」というイベントを主催。市民やゲストがモンゴル国についての短編映画や子供たちのモンゴル舞踊を見、「Sweden Mongolia 基金」の活動や関係プロジェクトを紹介され、モンゴル料理（ボーズ、ホーショールなど）を試食した。

このイベントにはドイツで活躍している「ホソーとトランス・モンゴリア」バンドが参加し、馬頭琴とホーミーを公演し、参加者を驚かせ、一般には「トゥブ県の」として知られている歌手バンザラグチが熱唱。ストックホルム市やデンマークで活躍しているモンゴル人たちの代表者らも参加、在デンマーク・モンゴル国大使館のB. エンフマ

ンダフ大使も出席し、挨拶した。

モンゴル国をアピールした同イベントの特徴はモンゴル史、特にチンギス・ハーンの名前と関係があるルンド市で開催されたこと。ルンド市には1954年前にDjingis Khanという名前の劇場が活動していた他に、現在、Djingis Khanという名前の区や住区、4星のホテルがあるという。

チンギス・ハーンの名前を付けた機関や場所はルンド市に少なくないので、調べてみると、スウェーデンの学者や研究者たちが19世紀末から20世紀初め頃に研究していた中央アジア学はルンド大学で主として行われ、研究者らが集中し、中央アジア及びモンゴル研究に関する歴史的な発見物は同大学に所蔵されてきたことと関係があるという。

23日、ダルハンオール県で「石油」工場の起工式が行なわれ、工場はダルハン市から10キロの郡、ダルハンからシャリーンの鉄道から1.5キロの場所に建設される。

起工式にD. デンベレル国会議長、ダルハンオール県のL. グンチンバートル国家組織常任委員長、D. エルバー予算常任委員長、日本丸紅株式会社の川合紳二・社長、東洋エンジニアリング株式会社の利・エンジニアリング統括本部長がそれぞれ参加した。

丸紅株式会社の川合紳二氏は「日本とモンゴルの関係はパートナーシップ関係である。本日の起工式もその一例である。我々は皆様の支援によりなるべく進めさせるために努める。我々がこの工場はモンゴルの発展に貢献を果たすと信じている」と述べた。

東洋エンジニアリング株式会社の利・エンジニアリング統括本部長兼プロジェクト総括は「丸紅銀行融資の本プロジェクトの団長として2008年初めてダルハンに訪れた。当時は我々は知事やハヤンヒャルバー氏と学士院ムジム氏にとっても重要な情報もらい、フィージビリティスタディ(FS)のあるちゃんとしたプロジェクトを作成できた。わが社は世界で石油工場を建設した経験があるので、今回、モンゴルで新工場を建設することで大変嬉しい。来年、わが国交樹立40周年になる。この日に新工場の工事が始まるので、非常に嬉しい」と語った。

同工場は、工場用の敷地

## 「ウォール」

22日、世界中が参加している「ウォールを占拠せよ」運動を支援する国でも実施する提案を、モンゴル労働組合総連合会のS. ガンバートル氏が発表。ガンバートル氏は

## ゴミ処理加工工場を建設